

相州藤沢の古道



相州藤沢宿



相州江ノ島

平成19年11月17日

NPO法人湘南ふじさわシニアネット

山本 弘

時代別道路の整備と変革

- 1 古代 平安時代 律令制の行政地域区画「五畿七道」(駅馬・伝馬)
大和・山城・摂津・河内・和泉の5ヵ国が「五畿」
東海道・東山道・北陸道・南海道・山陽道・山陰道・西海道の7地域が「七道」
- 2 中世 鎌倉時代 京と鎌倉二都間を直接結ぶ東海道の重要性。
「上の道」飯田・瀬谷上野方面、「中の道」二俣川・荏田下野方面、「下の道」
金沢・高輪常陸方面。
鎌倉道は経済流通的はもとより、軍事戦略的要素。
- 3 近世 江戸時代 参勤交代制と伝馬宿駅の整備。
継飛脚制度の確立と関所等による管理体制の強化。
五街道 東海道・中山道・甲州道中・日光道中・奥州道中の整備と道中奉行職
の設置。
- 4 相州古道の発展
古代は相模国府(平塚・海老名・大磯・小田原)の移転。
中世は鎌倉幕府が開かれた、京・伊豆・三浦の関連。
近世は東海道藤沢宿を中心に、信仰・観光地として大山・江の島・鎌倉を
結ぶ道路「大山道」「江の島道」「鎌倉道」が賑わう。

初期の東海道と東山道

東山道

信濃 ——— 碓氷峠 ——— 上野 ——— 下野 ——— 陸奥

東海道

駿河 ——— 伊豆 ——— 足柄峠 ——— 相模 ——— 上総 ——— 安房

甲斐 ——— 碓氷峠 ——— 上野 ——— 下野 ——— 陸奥

武蔵 ——— 下総 ——— 常陸

律令体制(奈良時代)

畿内・南海道・山陽道・山陰道・西海道・東海道・東山道・北陸道に区分

(詳細=相模)

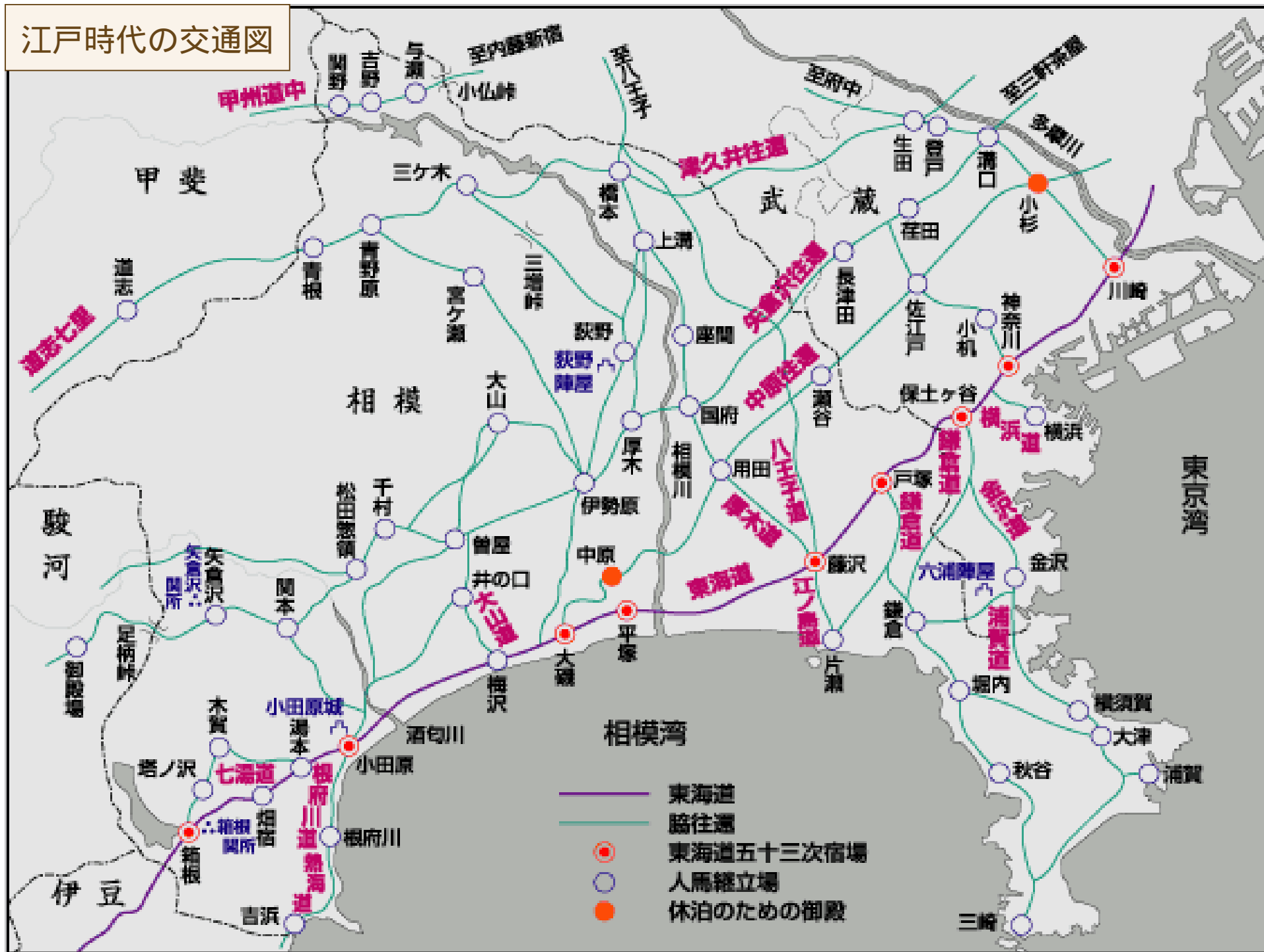
足柄峠 → 小野(厚木) → 海老名 → 藤沢(村岡・大道) → 葉山 → 走水(横須賀)

相模 → 上総は海路ルート(下総より上総が都に近い)

江戸時代の相模の道



江戸時代の交通図



主な古道の石仏

- 道標** 糸のしま道、右大山道等今でいう道路標識。
- 一里塚** 東海道(日本橋・三条大橋)に一里(36町)置きに設置された道路脇に塚を築き、道路距離票である。
- 道祖神塔** 道路の悪霊を防いで行く人を守護する神で主に村境にある。双体(男女一体)のものが多く、夫婦円満、子孫繁栄、五穀豊穡などを願うことが多い。
- 庚申塔** 悪霊を追い払うために、道端に石碑を立て青面金剛を祀ったものである。庚申信仰とは道教の「三尸(サンシ)説からきたもので、庚申の日の夜に、人の体内にいる三尸という虫が、その人の眠っている間に天に上がり、天帝にその人の罪を報告し、その罪の重さにより人の寿命が縮められるという信仰です。
- お地蔵様(六地蔵塔・子安地蔵)・観音様・馬頭観音塔**
地蔵菩薩の略。弥勒菩薩、観世音菩薩などがある。
釈迦入滅後、弥勒菩薩が出るまで人間は地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天上の六道を輪廻転生すると言われその苦を救うため、その六道にお地蔵さんがいるという信仰です。
馬頭観音は馬頭明王ともいい、馬の保護神として、特に信仰された。

石 仏



庚申塔

馬頭觀世音塔



庚申供養塔

庚申講中塔

東海道四ツ谷・不動前



江戸時代の地図

「是より右大山みち」の 道標と、大山遥拝の鳥居 現況の写真

糸のしま道の江の島弁財天道標



片瀬小学校・泉蔵寺の道標



通常は右左に「一切衆生・二世安楽」
ここは左龍口寺・右江の島道となっている。

関東総検校 杉山和一
元禄二年(1689年)

江戸時代の道の定義

道の種類	道の幅
大海道(大街道)	6間(約10.8m)
小海道(小街道)	3間(約5.4m)
横道	2間(約3.6m)
馬道	2間(約3.6m)
歩行路	1間(約1.8m)

家康の遺訓と言われる「家康百箇条に江戸時代の道路に関する事柄が示されている。これにより、大海道に相当する五海道の幅が、6間(約10.8m)と定められた。

江戸時代の道幅

通過宿村名	実際の道幅
藤沢宿	4間
鵜沼村	3間～4間
稻荷村	4間
羽鳥村	3間余～4間余
折戸村	3間余～4間余
大庭村	4間余～5間余
辻堂村	5間

東海道宿村大概帳記載による。